

同窓生の新刊紹介 上田藩主、松平忠固評伝（関良基さん：86期）

同窓の関良基さん（86期、拓殖大学教授）が新刊を上梓しました。

『日本を開国させた男、松平忠固 近代日本の礎を築いた老中』（作品社刊）です。

<http://www.sakuhinsha.com/history/28126.html>

関さんは4年前、『赤松小三郎ともう一つの明治維新』を刊行して、多くの読者や書評欄で高い評価を得ました。

実は、関さんには今年の6月27日に開催予定していた関東同窓会総会のアトラクション（講演会）で赤松小三郎や松平忠固の話をしてもらう予定でした。コロナ禍で総会は中止となり、残念ながら話は聞くことが出来ず、次の機会のお楽しみとなりました。

新刊書には、母校の古城の門の写真をはじめ、「あとがき」では、同期で上田の旧松平藩士子孫の会「明倫会」会長の布施修一郎君(6組)も登場しています。

本のカバーには「“開国”を断行したのは、井伊直弼ではない。誰よりも海外情勢を認識し、徳川斉昭や井伊と対立して開国・交易を推進。そして養蚕業の輸出の基盤を造った松平忠固、その歴史的真相と実像を初めて明らかにする」とあります。

皆さんも是非、手に取って一読されることをお勧めします。

（2020年7月1日記）